

開講科目名 Course	民法研究（Ｂ） / Civil Law（Ｂ）
時間割コード Course Code	13150
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 2
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	佐藤 直史
科目区分 Course Group	企業関係法科目群
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 直史（法学部）
授業の目標	

## 授業の概要

## &lt; 授業の目標 &gt;

民法の物権・担保物権に関する基本的なルールを習得し、これらのルールの社会における意義を理解し、利害関係者間の調整を図る法的バランス感覚を身につけ、具体的な問題の解決を論じることができるようになる素養を習得することを目標とします。

## 知識・理解の領域

物権法の領域は経済取引秩序の基本的なルールですし、担保物権は金融取引社会の基本的なルールです。こうした現在の経済社会の根幹を形成する基本的な法理論と取引の仕組みについて知識を得て、理解を深めます。

## 技能の領域

物を使用・収益・処分する、担保として活用する、担保権を確保して債権回収を確実にする、といった経済・金融取引を支える基本的なルールを前提に、利害関係者の利益の調整について、具体的な事例に対応する技能を身につけます。

## 態度・志向性の領域

経済社会の中で物権・担保物権に関する基本的なルールがどのような役割を果たしているかについて知見を広めることを通じ、社会におけるルールの意義・機能を実感し、法的思考・法的バランス感覚を養います。

## &lt; 授業の概要 &gt;

物を所有したり、売ったり、賃借したりすることは、みなさんにとっても大変身近なことです。そうした経済取引を安心して行うために、どのようなルールが整備され、機能しているのでしょうか。また、物の価値に着目した金融取引に関して、基本的なルールは社会の発展に合わせてどのように変化してきたのでしょうか。

この授業では、具体的な事例の検討を通じて、物権・担保物権に関する基本的なルールについて、講義形式で説明していきます。時間的な制約がありますので、すべての条文をくまなく扱うのではなく、授業の目標の達成を念頭に置いて、重要な項目を選んで具体的な検討を行うことを方針とします。トピックに応じてグループディスカッションも行います。授業期間中に、小テストを実施します。条文を参照しますので、六法は必ず持参してください。出欠管理は適正に行います。

## &lt; 質問への対応 &gt;

授業時間中に質問を受ける時間を設けます。疑問点を共有し、みなさんで考えることで、よりよく授業を理解することができるようにします。授業中に解消できなかった疑問や授業後に出てきた疑問については、オフィスアワーで対応します。

## &lt; 評価の方法 &gt;

小テスト 30%

期末レポート 70%

学部にも所属する履修生よりも高い理解を求めますので、学部にも所属する履修生に対する評価よりも高度な評価を行います。

毎週の授業の内容に関する小テストの期限内の提出をもって、その授業の出席とします。5回以上欠席した場合は、失格にします。

## &lt; 小テスト・期末レポートのフィードバック &gt;

小テストの内容については、翌週又は翌々週の授業で解説を行います。また、期末レポートについては、Classroomを通じて解説を行います。

## &lt; 授業計画 &gt;

第1回 ガイダンス・物権概論（物権の意義と性質、一般的効力など）

第2回 物権変動Ⅰ（物権変動を生じる法律行為、物権変動と公示など）

第3回 物権変動Ⅱ（不動産物権変動の對抗問題など）

第4回 物権変動Ⅲ（動産物権変動の公示、動産の即時取得など）

第5回 所有権（相隣関係、共有・区分所有）と用益物権

第6回 占有権（占有権の意義・効力など）

第7回 物権法の復習とまとめ（第1回から第6回までの講義の振り返りを行うとともに、関連するトピックの追加的な説明や疑問点の解消を行う。）

第8回 担保物権法総論（意義、効力、法的性質など）

第9回 抵当権Ⅰ（意義、効力など）

第10回 抵当権Ⅱ（抵当権と抵当不動産の所有・利用など）

第11回 抵当権Ⅲ（抵当権の実行など）

第12回 非典型担保（譲渡担保、所有権留保など）

第13回 質権・法定担保物権

第14回 担保物権法の復習とまとめ（第8回から第13回までの講義の振り返りを行うとともに、関連するトピックの追加的な説明や疑問点の解消を行う。）

第15回 復習とまとめ（講義の振り返りを行い、経済社会における物権・担保物権に関するルールの意義と機能を俯瞰的に検討する。）

## 実務経験のある教員による授業

弁護士としての実務経験に加え、法律アドバイザーとしてアジア諸国における民法起草支援に携わった経験を有する教員が、社会・経済の発展に合わせたルールのあり方について具体例を通じて解説し、物権法に関するより深い理解を指導する科目である。

## &lt; 予習及び復習 &gt;

物権法・担保物権法は、多数の利害関係者の利益調整のルールであり、法律の中でも複雑な部類に

	属します。予習として、各授業前に、2時間かけて、前回の授業で指示のあった課題及びレジュメに対応する教科書の該当箇所を読み、疑問点を明確にしておいてください。授業の後は、2時間かけて、授業内容を振り返り、もう一度、自分の頭で考えて、理解を深めてください。
評価方法	
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	
授業計画	
テキスト	授業ではレジュメを使用しますが、予習や復習のために、次の文献をテキストとして指定します。 淡路剛久・鎌田薫・原田純孝・生熊長幸『民法? 物権（有斐閣Sシリーズ）〔第4版補訂〕』有斐閣（2019年）
参考書	安永正昭『講義 物権・担保物権法〔第3版〕』有斐閣（2019年） 佐久間毅『民法の基礎2 物権〔第2版〕』有斐閣（2019年） 道垣内弘人『担保物権法（現代民法III）〔第4版〕』有斐閣（2017年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	
フィードバックの方法	
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	
使用言語	
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	